

質疑応答(要旨)

- Q: サービス IT について、第1四半期の受注高が伸びている背景について説明していただけますか。また、第1四半期は増収の中で要員増等もあって減益になったと思いますが、通期計画での増益に向けて、いつ頃から増収効果が先行投資を吸収して増益に転じるようになって考えているのか、会社の見通しを教えてください。
- A: サービス IT の受注高は、売上高と同じように決済関連や ERP をはじめとして全般的に増加し、好調でした。収益性については、事業構造転換の途上であり、サービス型ビジネスの立上げ期の先行投資や間接的な費用負担増等で営業利益率が下がっている状況です。営業利益の前年同期比 2.5 億円減少は先行投資コストが 3 億円強増加した影響であり、事業そのものの収益性に大きな問題はないと考えています。こうした状況を踏まえ、下期には事業拡大によって通期計画どおりの増益を目指す形になると現時点では見えています。
- Q: 決算説明資料にも記載がある通り、金融 IT では前期に産業 IT で計上していた取引先分の計上があると思います。この影響を除いた場合、第1四半期の金融 IT における受注高増加はどのような案件が増えているのでしょうか。また、当期に入って主要な顧客の1社で大きなプロジェクトの状況が大きく変わったと思いますが、そのプロジェクトを担当していた要員は他プロジェクトに上手くアサインできているのかどうかについて教えてください。
- A: 第1四半期の金融 IT 受注高は、当期からこのセグメントに計上することになった取引先分を除いてもカード向け等の拡大によって 10%程度は伸びており、好調だったとお考えいただければと存じます。また、ご指摘の案件を含めた大型案件の反動減については期初時点で想定していました。前回の決算説明会でも、この分野は活況であり、元々要員が不足している状態が続いていることから稼働面の影響はない旨をコメントしたように、関係する要員はサービス IT の新しい事業や同じお客様における他の案件等にシフトさせています。
- Q: 今回、売上総利益率が 2.2 ポイント改善していますが、この要因をもう少し解説していただけますか。また、改善は一過性ではなく、今後も持続すると考えてよいのでしょうか。
- A: 不採算案件の抑制もあります。産業 IT における案件の採算性向上等によって売上総利益率が改善したと考えていますので、今後も維持・向上が可能な水準であると考えています。
- Q: 先行投資コストが第1四半期で前年同期比 4.1 億円増加していますが、主にサービス IT での増加でしょうか。また、先行投資コストは通期で前期比 25 億円増加する計画になっていますが、第2四半期以降の影響はどのように出てくると見えていますでしょうか。
- A: 第1四半期の増加額 4.1 億円のうち 3 億円強がサービス IT で、残りはサービス IT 以外の各セグメントに分かれており、通期 25 億円の増加も同じようにサービス IT のウェイトが大きいと考えています。第2四半期以降の影響は、特定の四半期に偏ることなくほぼ均等になると想定しています。
- Q: 産業 IT は、前下期も利益率が高くなり、この第1四半期も前年同期から大きく改善しています。電力・ガスのシステム改革の流れを受けて好調とご説明いただいているエネルギー系が貢献しているのではないかと推測していますが、もう少しご解説いただければと存じます。また、エネルギー系の業務が落ち着いてきた場合でもこの収益性は維持できるとお考えでしょうか。
- A: 仰るとおり、エネルギー系は電力・ガスのシステム改革に伴って活況な状態が続いています。大規模な案件というわけではありませんが、エンハンスメントの中で発送電分離に伴う分社化関連の小規模案件が多数出てきている状況であり、さらに新電力向けや新ビジネス対応等も見込まれますので、今後も好調な状況が続くだろうと考えています。産業 IT における収益性の水準については、エネルギー系に限らず幅広い業種が好調に推移する中、先ほどご説明のとおり案件の採算性向上等によって改善したことから、今後も維持・向上が可能であると考えています。

以上